

歴史の廃棄物---〈技術〉と〈未来の他者〉

大澤真幸

I 資本主義の指標としての廃棄物

- 1 ハイデガーは近代技術の問題を、存在の歴史における危機と見なす。存在の次元によって、存在論的な次元が浸食される。不可能なことへの憂慮。
- 2 Fukuyama, Habermas, McKibben たちのテクノロジーへの警告と後ろ向きの解決。
- 3 存在論的な破局は、技術が現実になったときではなく、可能なものになったときにすでに終わっている。
- 4 ハイデガーにとって重要なのは、「物の内に **das Geviert** が確保されていること」。しかし、ハイデガーが挙げる事例は、ノスタルジックで、過去志向（ワインを入れる瓶、風車、ギリシアの神殿等）。
- 5 こうした「物」の内であらぐことは、近代技術への対抗策にはならない。むしろ、その補完物。近代技術からの解放は、その発展に徹底的に関与することの中に見出されるべき。
- 6 **Gestell** のダイナミズムを規定しているのは、資本主義。資本主義の主要な生産物は、廃棄物、ゴミである。廃棄物が大量に出るということが、そのシステムが資本主義であることの指標。資本主義にとって脅威となりうる「物」は、廃棄物。
- 7 タルコフスキーにおける、廃棄物への愛。廃棄物が表現しているものは「歴史」である。ベンヤミンの「歴史の天使」。
 「歴史の天使はこのような様子であるに違いない。彼は顔を過去に向けている。ぼくらであれば事件の連続を眺めるところに、かれはただカタストロフのみを見る。そのカタストロフは、やすみなく廃墟の上に廃墟を積みかさねて、それを彼の鼻っさきへつきつけてくるのだ。」
 瓦礫とは何か。どうして廃棄物が重要なのか。

II 徴発 **Gestell** と召命 **Beruf**

- 3 〈存在〉は、存在の歴史の中の出来事 **Ereignis** 以外の何ものでもない。→〈存在の忘却〉と〈存在の真理〉の間の両義的關係へ。
- 4 デリダの場合。〈形而上学〉＝〈形而上学に汚染されているフィールドから脱出しようとする欲望〉
- 5 ハイデガーの場合。〈存在の忘却〉＝〈存在の真理〉 → 転回
- 6 頽落を、本来的に人間であることを基礎づける仕草として、肯定すること。人間の基本的な状態の中に孕まれている葛藤。「戦いは万物の父であり、万物の王である」（ヘラクレイトス）。
- 7 **Gestell** あらゆる物を駆り立て、取り立てる匿名の力。
- 8 **Beruf**（召命）としての職業（ルター）。→資本主義の精神
- 9 **Beruf**=**klesis** →?→ **classis**（兵士として徴発された市民）→**classe**=**Klasse** 階級（マルクス）
- 10 マルクスは、階級と召命を関連づけている。
 「それでは、ドイツ解放の積極的な可能性はどこにあるのか。解答。それはラディカルな鎖につながれたただひとつの階級の形成のうちにある。市民社会のどんな階級でもないような市民社会の一階級、あらゆるシュタントの解消でもあるような一シュタント、その普遍的な苦能ゆえに普遍的な性格をもち、なにか特殊な不正では

なく不正そのものをこうむっているためにどんな特殊な権利をも要求しない一領域……ひとことでいえば、人間の完全な喪失であり、したがって、ただ人間を全面的に救済することによってのみ自分自身を達成することができる領域…の形成のうちにある。こうした解消をひとつのシュタントとして体現したもの、それがプロレタリアートである」(『ヘーゲル法哲学批判』)

プロレタリアートは革命へと呼びかけられ、駆り立てられている。

- 11 存在の忘却／存在の真理＝徴発／召命＝ブルジョワジー／プロレタリアート →階級闘争

III トカゲが教えること

- 1 物質(石)と動物(トカゲ)と人間

- ① 石は無世界的である。
- ② 動物は世界欠乏的である(世界に関して貧しい)。
- ③ 人間は世界形成的である。

- 2 トカゲが、世界に関して「貧しい」、とは？

- 3 これはトカゲにとっては、「要らぬおせっかい」ではないか。

- 4 ハイデガーによれば、動物は、自分自身の世界が貧しいこと、自分の世界がまだ「不足」していることを自ら知っており、動物・生物の全体には、その貧しさに対する痛みが浸透している。

- 5 ベンヤミンの「歴史哲学テーゼ」がヒントに。

「歴史という構造物の場を形成するのは、均質な空虚な時間ではなくて、〈いま〉によってみたされた時間である。だからロベスピエールにとっては、古代ローマは、いまをはらんでいる過去であって、それをかれは、歴史の連続から叩きだしてみせたのだ。フランス革命はローマの自覚的な回帰だった」。

- 6 歴史の連続を断つような偶発的な出来事が過去に与える効果。例、1989年のベルリンの壁。

- 7 歴史という構造物の場は、「〈いま〉によってみたされた時間」である。〈いま〉(の革命的な出来事を引き起こすことになる過去の可能性)は、成就しなかった願望とか、失敗した試みのような否定的なかたちで存在。

- 8 写真の現像の喩え。

- 9 目的論の拒否。

- 10 もうひとつの例。ユダヤ教→キリスト教。

- 11 過去に見出される渴望、憂鬱、痛み等は、事後からの視点に映る「錯覚」ではなく、確かな実在。

- 12 こうした歴史の見方を、「動物(トカゲ)」に適用すると。

- 13 古代ローマにおける挫折、そこにおいては満たされなかった願望、そうしたものは、言わば、未来(フランス革命)からの呼びかけに応じようとしていたのだ。「歴史の天使」はどのように瓦礫を見るのか。廃棄物へと至ってしまった挫折や後悔が、未来の他者への応答になっている。

- 14 プロレタリアートは、廃棄物となった人間のこと。階級闘争とは、未来の他者からの呼びかけに応ずるのか、現在のシステムからの駆り立ての中で生きるのか、いずれを選択するのかをめぐる闘争である。階級の時間的モード。

結び

311の原発事故のこと。技術の導入は、未来の他者との連帯の問題である。